

高経大＋高経附
「高大コラボゼミ」

—双方向的高大連携の試み—

矢野修一

高崎経済大学教授
高崎経済大学附属高校顧問

目次

1. はじめに
2. 高経大＋高経附「高大コラボゼミ」
3. 高大コラボゼミの「評価」
4. おわりに

⇒第12回高大連携教育フォーラム『報告レジュメ集』
61-69頁参照。

1. はじめに

高崎経済大学

1957年、高崎市を設置者として創立。

2011年、公立大学法人高崎経済大学へ。

創立以来、「全国型公立大学」としての特性維持。現在も7割以上の学生が群馬県外出身者。経済・地域政策の2学部・2研究科体制。

高崎経済大学附属高校

1994年、高崎市立女子高校を母体に創立。

1学年280人(普通科普通コース7クラス、芸術コース1クラス)。県全域より通学。

* 両校は敷地別。自転車で約20分の距離。

* 高経大法人化後、協定書に基づき(2008年度以降、深化してきた)高大連携本格化。

* 2014年度から高経附SGHプログラムにも
全面協力。

高経附から高経大への入学者

	平成23年度	24年度	25年度	26年度
経済学部	4(44)	11(41)	2(38)	10(53)
地域政策学部	7(53)	19(62)	16(75)	19(72)
両学部合計	11(97)	30(103)	18(113)	29(125)

- * 数字は入学者数。()の数字は受験者数。
- * 受験者数は前期・中期・後期の一般入試と推薦入試の合計。
- * 地域政策学部の入学者には指定校推薦5名を含む。

日本における
高大連携の背景

大学全入時代
＝大学中退者6万人時代
＝大卒二一ト3万人時代

⇒高校・大学の教育内容、連携が問われる

ゼミ:

- もっとも大学らしい「知の形式」(船曳建夫『大学のエスノグラフィティ』有斐閣、2005年)

高大コラボゼミ①

- 「ゼミ」という形式が有する可能性を高大連携教育においても開花させる試み

高大コラボゼミ②

- 年齢の違う生徒と学生
- 教室の一方的座学を離れ、協力しながら具体的課題に取り組む
- 専門的知識、コミュニケーション能力
プレゼンテーション能力の養成

高大コラボゼミ③

教室外に「**出会い**」の場を設定：

**良き大人、新たな見方
自分の新たな可能性**

「学ぶ目的」「学び方」

「学ぶべきテーマ」「働くということ」

⇒これらを意識させるきっかけづくり

2. 高経大 + 高経附

「高大コラボゼミ」

グループ分け

高経附3年1組40名を6分割

高経大矢野ゼミナール3年生15名を6分割

⇒1グループ高校生6～7名、大学生2～3名

毎年6つの企業のケーススタディ実施

コラボゼミのねらい

～高校生の場合①

教室外で大学での学びの内容・
方法を体験

⇒ 教室での学習意欲向上

進路・キャリア意識の向上

コラボゼミのねらい

～高校生の場合②

プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力の向上（事前の調査研究、発表・討論を通じて）

コラボゼミのねらい

～大学生の場合

教えることによって

学ぶ

高大コラボゼミ研究テーマ

日本企業の海外戦略

毎年、日本を代表する6企業の海外戦略を研究し、実際に訪問し、成果発表を行う

【具体例】 トヨタ自動車、三井物産、日立製作所、JFEスチール、日産自動車、住友商事、三菱マテリアル、三井化学、ヤマトホールディングス、富士フイルム、コマツ等。

ケーススタディ対象企業の選択

* 2010年度・11年度は個人的人脈。

* 2012年度以降、特定非営利活動法人「経営支援NPOクラブ」に仲介依頼。

← **社会貢献を目指す企業OB組織。**

* 現在の日本では、CSRに取り組む企業本体、業界団体、各種経済団体、NPOなどが教育を含め社会貢献活動に積極的。

⇒ **高・大・産(・老)の連携による次世代の育成。**

高大コラボゼミ 全体会合

* 4月から7月まで7~8回。

* 1回90分。高経大にて。

* グループ会合は随時。
(特に企業訪問前、成果発表会前)

高大コラボゼミの3本柱

- (1) 日経新聞円ダービー参加
- (2) 企業研究・企業訪問
- (3) 英検・TOEIC活用による英語学習

(3) 英検・TOEIC活用による英語学習

- * 高校生：高経附は1年次から英検全員受験。
コラボゼミ中、3年6月の英検受験。
- * 大学生：高経大1年・2年次9月のTOEIC必須。
コラボゼミ中、5月のTOEIC受験。
- * コラボゼミでは、日本企業の海外戦略を研究しながら、「必要条件としての英語」という考え方が広まっている事情、高校・大学で英語を学ぶ意味を認識させる。

(1) 日経新聞円ダービー参加

- * 円ドルレート: 企業の経営戦略に影響。
- * 4月、5月、6月末の円ドルレートを予想するコンテスト「円ダービー学生対抗戦」(2001年以來開催されている)に参加。
- * 国内外の政治・経済ニュースに着目する必要性。
- * 現実の経済に関心を持つきっかけ、グループ学習のスタートプログラムとして推奨。
- * レート予想の根拠を話し合う。

(2) 企業研究・企業訪問①

* 各企業の沿革、経営戦略、同業他社の状況、世界市場の動向等を、各企業のHP、テレビ・新聞・雑誌等のニュース、各種論文・調査資料等に基づき研究。

* 大学生は高校生に適切な課題を提供し、次回、内容発表。その後、討論。

* 8月第4金曜日の企業訪問・インタビューに向け、情報・意見交換し論点をつめる。

(2) 企業研究・企業訪問②

* 高校・大学の教員はコラボゼミの最中、各テーブルをまわり、議論に耳を傾け、状況に応じて話し合いをファシリテート。

* 高校生は中間発表会において研究内容を英語でプレゼンテーションする（高経大留学生との質疑応答あり）。

(2) 企業研究・企業訪問③

- * 8月第4金曜の企業訪問・インタビュー。
- * 6グループが引率教員とともに企業訪問。
- * 服装、髪型、髪色等、**社会人としての身だしなみ**を日頃のコラボゼミから注意。
- * **高校生が主体となって、1時間30分から2時間のインタビュー。緊張のひとつとき。**
- * 午後は施設見学(日本銀行、東京証券取引所、クロネコデータセンター、クロノゲート等)
- * 帰りの車中から、成果発表会打ち合わせ。

コラボゼミ成果発表会①

* 総合学習の時間を用い、9月第2土曜の成果発表会に向けて資料作り、プレゼン準備。

←大学生が高校に出向き、協力・アドバイス。

* 9月第1週にリハーサル。

厳しいコメントに悔し涙を流す生徒も。

コラボゼミ成果発表会②

* 高経大の大教室にて成果発表会。

* 高経大・高経附教職員、経営支援NPO
クラブ関係者、県・市教委関係者、大学生
(高経大生その他、**コラボゼミOB・OG**)、
高経附1年・2年次生、保護者、一般市民
(**高経附受験を考える中学生親子含む**)、
マスコミ関係者など300名近くが集合。

コラボゼミ成果発表会③

* 主役は高校生。冒頭、グループ代表が英語で概要をプレゼンテーション。

* 大学生は司会進行、受付・フロア係、発表アシスタントとしてサポートに回る。

コラボゼミ成果発表会④

* 冒頭の英語スピーチから、発表、フロアとの質疑応答まで、堂々となす高校生。

* 発表会終了後は、安堵感、達成感から、会場は笑顔、感謝の言葉、そして涙に満ちあふれる。

3. 高大コラボゼミへの 「評価」

『高大コラボゼミ成果報告書』より

第12回高大連携教育フォーラム

『報告レジュメ集』67-68頁

- * 高校生のコメント
- * 大学生のコメント
- * 保護者のコメント

キャリア教育へのヒント？

* キャリア教育と高大接続面の課題：

「学ぶ力をつけさせる」「なぜ大学に行くのか、考えるきっかけ作り」「出口教育的なキャリア指導ではなく就職後の生き方」「他者理解」「地域との接点」等。

⇒こうした諸課題に対する**答えのヒントとしての
高大コラボゼミ？**

社会人基礎力の涵養？

* 経済産業省による「社会人基礎力」の提唱：

前に踏み出す力

考え抜く力

チームで働く力

* この曖昧模糊とした「社会人基礎力」の養成を高校・大学教育で直接目指せるか、目指すべきか
(高経大産研編『高大連携と能力形成』日本経済評論社、2013年、302-306頁)。

「自信力」をどうつける？

- * 自信力：自己を肯定的に評価し、未知のテーマであっても、それに挑戦してみようという気持ちを起こさせる力（河地和子『自信力が学生を変える』平凡社新書、2005年）
- * 具体的テーマに主体的に関わり、協力しながら「小さな成功（・失敗）体験」を積み上げることの意味。そのきっかけとしての高大コラボゼミ？
- * 高大教職員、企業人（・OB）等、「良き大人たち」が見守る高大コラボゼミ。

「出会い」の場としてのコラボゼミ

* 普段は出会わない年長者が関わる
高大コラボゼミ

⇒ 生徒・学生が自らの「ロールモデル」と出会える可能性。思いもよらなかった「新たな自分」と出会える可能性。

4. おわりに

高大コラボゼミの「双方向性」①

教えること
によって学ぶ

大学生

高大コラボゼミの「双方向性」②

それぞれの教育テーマ・課題への

相互理解

を深める

高・大教員

高大コラボゼミの「双方向性」③

教室外の生徒・学生のやりとりから、教員が

教室内で見落としていた能力を発見

⇒ 個々人の多様な能力の評価軸を発見

主要参考文献

- 高崎経済大学産業研究所編『高大連携と能力形成』日本経済評論社、2013年。
- 矢野修一「地方公立大学にとっての卒業生の重要性ーゼミを媒介としたネットワークの形成」高崎経済大学附属産業研究所編『地方公立大学の未来』日本経済評論社、2010年。

ご清聴ありがとうございました

高崎経済大学教授
高崎経済大学附属高校顧問

矢野修一